

## 歴史上の「伏見城」のことは… 秀吉、家康が築城した「伏見城」について

### ○どんな城？

伏見区桃山の丘陵に豊臣秀吉・徳川家康が築いた複数の城の総称。元和9(1623)年に廃城となりました。現在は本丸跡周辺に明治天皇陵があります。また、その跡地の一部には、昭和39(1964)年に遊園地の伏見桃山城キャッスルランドが開園し、天守閣が作られました。これは秀吉・家康の伏見城とは全く別のものです。なおキャッスルランドは平成15(2003)年1月に閉園しましたが、天守閣は残されました。

### ○秀吉の伏見城

伏見城の前身は、文禄元(1592)年、宇治川に臨む「指月(しげつ)の岡」(現伏見区桃山町泰長老くたいちょうろう)に造営された秀吉の別荘。その翌年、嫡子秀頼が誕生したことから、秀吉の隠居城建築の計画が本格的な築城に改められ、天守閣などの城郭施設が整えられました。

しかし、慶長元(1596)年閏7月の大地震(慶長の大地震)で倒壊、木幡山(こはたやま、現伏見区桃山町明治天皇陵域内)に場所が移され、新たに築城されました。10月には本丸が完成し、翌慶長2(1597)年5月に天守閣や殿舎が完成、秀吉・秀頼らが入城しました。聚楽第(じゅらくだい)をはじめ多数の建物が移築されたと伝えられています。同年10月には、「舟入(ふないり)学問所」といわれる茶亭が完成し、宇治川から直接舟を横付けできました。この遺構は、桃山町丹後に南北約300メートル、東西90メートルの窪地として残っています。

本丸の中央北には、天守閣があり、本丸を取り囲む郭は、秀吉側室の居所とされ、周囲の郭は秀吉側近の邸宅が配置されました。内郭の南東端には、山里丸・御茶山など、自然の景観を生かした学問所や茶亭が築かれました。慶長3年(1598)8月18日、秀吉はこの城で、その生涯を終えました。

秀吉による伏見城の築城により、伏見は城下町として大きく発展しました。

### ○家康の伏見城

秀吉の死後、徳川家康が豊臣秀頼の大老として伏見城に入りましたが、慶長5(1600)年、関ヶ原合戦の前哨戦によって落城。慶長7(1602)年、家康によって再建され、その翌年、家康は伏見城で征夷大将軍に就任しました。家康は将軍在任中のほとんどを伏見城で過ごし、伏見城は、近畿地方における徳川政権の拠点となりました。

大坂の陣で豊臣氏が滅亡した後、一国一城令により京都に二条城と伏見城の2つの城を維持する名目がなくなり、元和9(1623)年の徳川家光の将軍宣下が行われたことを最後に、伏見城は廃城になりました。

廃城後、各地の寺社などに伏見城の遺構が移築されましたが、これらのほとんどは、豊臣秀吉時代の伏見城ではなく、徳川家康時代の伏見城の遺構と考えられています。

取り壊された伏見城跡の一带には、桃の木が植えられ、桃山という地名が生まれました。後年、明治天皇陵造営によって、本丸跡附近が陵地となり、現在往時をしのぶものは、内堀の一部が紅雪池(こうせついけ)や治部池(じぶいけ)として残っているほかはほとんど見られません。

(「京都市歴史資料館」ホームページより引用)

[http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/fmindex/zikou\\_frame.html](http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/fmindex/zikou_frame.html)

財団法人京都市体育協会